

評価結果概要表

作成日 平成 22 年 2 月 22 日

【評価実施概要】

事業所番号	秋田県知事指定第 0572207496号
法人名	ユウゲンガイシャ 株式会社 まつかさ園
事業所名	グループホームまつかさ園
所在地	能代市二ツ井町字下野家後95-19 (電話) 0185-71-0087
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
所在地	秋田市旭北栄町1-5
訪問調査日	平成22年1月21日

【情報提供票より】 (平成21年12月1日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 9 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	8 人 (常勤 8 人 非常勤 常勤換算 6.7 人)

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	600 円	その他の経費(月額)	360 円
敷金	□有()円 <input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	□有()円 <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	□有 / □無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名
要介護3	4 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.1 歳	最低 69 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	荒谷医院
---------	------

【外部評価で確認された事業所の特徴】

職員全員で考えた「助け合いの心」を理念に掲げ、利用者と家庭、地域社会との関わりを大切にしたいとの基本方針に基づき、実現に向けて取り組んでいる。
 管理者のリーダーシップのもと、年齢層の幅広い職員が一体となってサービスの向上に取り組み、職員の異動も少ないため職員間の連携もよく、画一的にならないケアに努めている。
 また、帰宅願望のある方の言動を制止することなく、タクシー会社と連携して自宅に送り届け、後から職員が訪問して共に帰るなど、利用者の思いを尊重し、工夫しながら支援している。
 さらには、旧町地区の事業所と合同で勉強会を開いたり、他事業所の運営推進会議に参加して取り組みに反映させるなど、地域のネットワークを有効に活用しながらサービスの向上につなげている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスとしての理念の見直しや家族への情報提供、個人情報保護の取り扱い、緊急災害時の備えなどのほか、職員異動時の利用者の不安を取り除いたり、地域による利用者の見守り体制の充実など、運営・サービス面で改善につなげている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回評価結果を全職員で共有し、改善計画を作成したうえで改善につなげており、自己評価は全職員で意見交換しながら取りまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者の状況のほか外部評価結果を報告し、理念の見直しや町内会への加入など検討しているほか、車イスで外出しやすいよう事業所前の砂利道を舗装してほしいとの要望にも建設的に意見交換している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱を設置し、面会時や運営推進会議などで家族の意向を確認しており、家族の要望から歩行器を購入するなど、暮らしやすいよう改善につなげている。 今後は、家族が気軽に集い、意見を述べるなど、潜在的な意向を把握する機会づくりを工夫してほしい。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の盆踊りや老人福祉施設の夏祭り、隣接する保育園の行事などに積極的に参加して交流している。 なお、自治会への加入を働きかけているため、今後は地域の一員として地域に開かれた交流の促進を期待したい。

外部評価	自己評価	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営								
1. 理念と共有								
1	1	○地域密着型サービスとしての理念	職員全員で話し合い、地域密着型サービスとしての理念を作り上げている。			前回評価結果を受けて昨年度に理念を見直し、全職員で考え、意見を集約して新しい理念を作成している。 理念は「助け合いの心」とし、家庭や地域社会との関わりを大切にすることを基本方針に掲げている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	新たに職員全員で話し合い、地域密着型サービスとして、事業所独自の理念を構築している。					
2	2	○理念の共有と日々の取り組み	理念・方針等を述べ体感できるように運営者・管理者・職員は理念を共有し取り組んでいる。			事務室や玄関に理念を掲示し、理念の作成段階から全職員が関わることで、理念及び基本方針に対する職員の理解が深まっている。 また、「助け合いの心」を実現するため、利用者同士が支え合えるよう見守りや声かけしながら支援している。		
		運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	グループホームの理念をよく理解し、常に念頭に入れながら、よりよいケアサービスを行っていくためにはどのようにしていくかを検討し、お互いの意見を尊重しあい、前向きな姿勢で取り組んでいる。					
3	3	○家族や地域への理念の浸透	市役所・地域包括支援センター・民生委員・近隣住民・入居者の家族等に運営推進会議で話し合い、契約時説明理解の上で行っている。					
		事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	市役所や、地域包括支援センター、民生委員、近隣住民、利用者の家族などに運営推進会議に参加していただき理解を得よう取り組んでいる。					
2. 地域との支えあい								
4	4	○隣近所とのつきあい	事業所も地域住民の一員となって地域に溶け込み違和感を感じさせないよう気軽に立ち寄ってもらえるような家庭的雰囲気づくりで日常的につき合いを行っている。					
		管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	街であった時など気軽に声をかけ、日常的な会話をし、ホームにも気軽に立ち寄ってもらえる様な雰囲気作りに努めている。					
3	5	○地域とのつきあい	行事・地域活動等に参加し地元の人々と声をかけ合い地域の一員として交流に取り組んでいる。	○	運営推進会議参加者と利用者と一緒に日常生活を共に又は、食事を一緒にいただく企画、祭り等企画しながら取り組んでいきたい。	地域の盆踊りや近隣老人福祉施設の夏祭り、隣接する保育園の行事などに参加して交流している。 また、自治会への加入を働きかけているが、利用者家族の同意が必要とのことで検討している。	○	地域へ出かけて積極的に交流しているが、事業所を開放した近隣住民との関わりを前回評価でも課題としているため、既存の事業所行事に積極的に参加を呼びかけるなど、交流の幅を広げてほしい。
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	他施設の行事、地域ケア会議等にも参加し、地元の人々との交流機会を設けている。	○	運営推進会議参加者と、利用者と一緒に食事をしたり日常生活を共に過ごす機会を設け取り組んでいきたい。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
	6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議で民生委員、地域住民が参加により困難事例等をあげながら地域の高齢者に暮らしに役立つ話し合いも行っている。					
			運営推進会議等で利用者への支援の状況等を議題に上げ、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。					
3. 理念を実践するための制度の理解と活用								
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価結果を職員会議で報告し、改善点等を全職員で話し合い改善に取り組んでいる。	○	全職員に自己に外部評価項目を理解に強調を述べ効果的な評価に取り組むを図る。		全職員が意見を出し合いながら自己評価に取り組み、管理者が取りまとめている。 また、前回評価結果を基に改善計画を作成し、取り組みにつなげている。	
			評価された事項をよく理解し、要改善等を見直し、業務を活かしながらよい改善策を見出していく。	○	評価された項目を全て効果的に取り組んでおらない事もあり、今後取り組みを強化していきたい。			
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者やサービスの実例等を話し合い参加者から意見によりサービスの向上に活かされている。				運営推進会議では利用者の状況や外部評価結果を報告し、課題を共有しながら対応を検討している。 また、会議終了後に利用者と共に食事をし、交流しながら認知症の理解を深めるなど工夫している。	
			運営推進会議で話し合い、参加者の意見を聞き、取り入れ、サービスの質の向上に活かしている。					
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者には利用者の困難事例等を相談し自己報告書を行政に提出の上でサービスの質の向上に活かしている。				運営推進会議後に利用者と共に食事をすることで利用者との交流し、認知症への理解を深めている。 また、生活保護や権利擁護事業利用者があるため、困難事例なども含めて担当機関と連携しながらサービスの向上に努めている。	
			近隣の人達にも行事等に参加していただけるよう呼びかけるとともに、町の行事（夏祭り、盆踊り）にも参加しサービスの質の向上に取り組んでいる。					
	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員等は、権利擁護事業を理解し当ホームでも利用者があり生活支援の業務、研修会への参加、地域福祉権利擁護事業のサービスの流れ等を理解により活用出来るように支援を行っている。					
			今回、家族の事情で権利擁護を利用する利用者があり、その際、再度その必要性を学び今後にも活かせるよう支援している。					
	11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待には、言葉の虐待等も含まれることを話し合い、身体行動、表情面を注目されながら早期発見に努めながら取り組んでいる。					
			会議等で話し合い、常にそのようなことがないように意識して日常のケアに関わり、言葉の暴力等、虐待防止に努めている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価			
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	
4. 理念を実践するための体制									
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時は利用者、家族等の不安、疑問点を気軽に聞けるように配慮を図り、文章、口頭等で十分説明を行い理解、納得を出来る様に行っている。							
		入所時に契約書を使用し、十分な説明を行っている。その際、不安や疑問、意見なども聴くよう取り組んでいる。退居の際も十分に説明し納得を得ている。							
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が意見、不満、苦情等を気軽に職員外部に話し出来る様に配慮、職員会議時、利用者に気軽に意見等を述べられるように、運営反映に取り組んでいる。							
		苦情処理委員が決められており、玄関に意見箱を設置している。今のところ意見箱への投書はみられていない。							
7 14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族に利用者の日常の様子、受診後の結果等を面会時写真を見せたり、お便り発行送付、電話により定期的に職員の異動時、面会、入金時報告に取り組んでいる。	○	担当制を行っているため職員の異動に対して、家族への報告を図って行きたい。		○	3か月に1回「広報まつかさ園」を発行して事業所全体の状況を知らせているほか、利用者の健康状態や生活の様子を手紙や面会時、電話などで知らせている。 また、前回評価結果を受けて職員の異動についても報告し、情報提供の充実に努めている。	○	ユニット毎の広報を発行したり、発行の頻度の増やすなど、さらなる充実に向けて情報提供のあり方を検討してほしい。
		担当制の為、担当者の異動時や新規担当が決まった場合は速やかに家族に報告する事になっている。また、金銭の使用状況や、健康状態は定期的に報告を行っている。							
8 15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が気がかりな事や、意見、希望を職員に気軽に口頭で伝えられたり面会時間問い合わせたり、玄関に意見書、意見箱を設置、説明、運営の反映に取り組んでいる。	○	口頭で苦情等は気軽にでも、交書として苦情は1件もなく家族会を企画上で意見集約、意見箱の有効活用等と取り組んで行きたい。		○	家族が意見を表明できるよう意見箱を設置したり、面会時に意向を確認しているほか、運営推進会議の家族代表からも要望等の把握に努めている。	○	前回評価結果でも家族の意見集約を課題としているため、全ての家族でなくとも家族同士が気軽に集い、意見を述べる機会を設けるなど、潜在的な意向を把握するための取り組みを工夫してほしい。
		13項目と同じであるが、更に2ヶ月に1回の運営推進会議に持ち回りで家族の方に参加してもらい、援助に活かすようにしている。	○	家族の意見、苦情はあまり聞かれず、気軽に話し合える機会を設けていきたい。					
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、又年2回の賞与時に意見、目標等を話し機会を設け常に職員を参考に反映に取り組んでいる。							
		月1回、職員会議を行っている。その中で運営やサービス向上等への効果的な意見があれば取り入れ反映させている。							
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者、家族の状況の変化等、状態、生活の流れに合わせてこれに即した職員の確保、勤務ローテーションに取り組んで行っている。							
		通院や行事などに応じて無理のない勤務ローテーションを組み、利用者のケアに支障がないよう配慮している。							

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
9	18	○職員の異動等による影響への配慮	認知症理解の上で担当者の異動、離職時は利用者、家族に挨拶等で行い利用者の影響に対し認識されながら実施されている。			新規職員の採用にあたり、利用者にあいさつのうえ家族にも連絡し、利用者との関係づくりのため経験ある職員と二人体制でケアするなど、前回評価結果を受けて関わり方を工夫している。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	特別な希望や事情がなければ移動は行っていない。産前産後、育児休暇、育児時間に配慮し離職を抑える努力をし、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。					
5. 人材の育成と支援								
10	19	○職員を育てる取り組み	利用者、家族の状況の変化等、状態、生活の流れに合わせてこれに即した職員の確保、勤務ローテーションを取り組んで行っている。	○	日々のケアを通じて課題を明らかにし内部研修の回数増加に取り組んでいきたい。	前回評価結果を受けて年間研修計画を作成し、計画的な研修受講を促しており、復命書の作成や職員会議での報告などにより情報の共有に努めている。 また、回数が多いわけではないが、内部研修も実施して職員の研鑽に努めている。	○	外部研修と同様に内部研修についても計画に盛り込み、職員の意見をテーマに反映させるなど研修の充実を努めてほしい。 また、職員一人ひとりの現状を踏まえて将来目標などを設定し、それに基づいて必要な研修を受講するなど、段階的にスキルアップできる仕組みを検討してほしい。
		運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自ら積極的に研修に参加してもらえよう声がけし、研修後は復命書の作成を行い、職員会議で報告し、成果を共有している。					
11	20	○同業者との交流を通じた向上	利用者、家族の状況の変化等、状態、生活の流れに合わせてこれに即した職員の確保、勤務ローテーションを取り組んで行っている。			県及び圏域の協議会に加盟し、旧町地区の事業所と合同で勉強会を開くなど互いに交流しながら質の向上につなげている。 また、他事業所の運営推進会議に参加し、会議の進め方や課題などを参考にしながら事業所の取り組みに反映させている。		
		運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会、地域ケア会議等に参加し、学んできた事を職員会議で活用し、質の向上に活かしている。					
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み	利用者、家族の状況の変化等、状態、生活の流れに合わせてこれに即した職員の確保、勤務ローテーションを取り組んで行っている。					
		運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	業務以外の話題等も取り入れながら、利用者と一緒に創作活動、カラオケを歌う等、よい環境作りを取り組み、ストレスの軽減に取り組んでいる。					
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み	個々の努力・実績・勤務状況を把握、利用者変化等を聴取にて職員にアドバイスをを行い各自が向上心を持って働けるよう取り組んでいる。					
		運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々にあった研修や資格取得等をを促し、向上心が持てるよう働きかけている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応								
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期段階の心まえを踏まえ不安と緊張の緩和により対等であるメッセージを伝え相談場の配慮、本人自身の表情に合わせて信頼関係を保ち受け止める努力に取り組んでいる。						
		常に本人とのコミュニケーションの中で、そのような状況を見出し、聴いていく機会を設け、解決策を持つと共に、本人との信頼関係を築く努力をしている。						
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	紹介過程とサービスへのイメージや現状認識、クライアントが話しやすい場面設定、クライアントの来所を待っている受容的な雰囲気、話しを聴きたいという姿勢を整え不安なく相談できるように務めている。						
		利用者の安否確認時、また、計画書作成時に家族に不安な事、困っている事、求めている事をよく聴く機会を設けている。						
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が現在直面している困難について自分のペースで語るなかで援助を必要とする課題を見極めインフォーマルな資源に取り組んでいる。						
		相談を受けた時はその都度適切な対応に努めると共に、他のサービス利用も含めた対応に努めている。						
12 26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	入居前に自宅を訪問し生活の様子と観察、本人が不安なく安心して生活が出来るよう馴染みの食器等、持参されるように家族と工夫されながら場の雰囲気に徐々に馴染めるように取り組んでいる。					事前に管理者と職員が自宅を訪問し、本人の生活の様子を把握しており、不安なく生活できるよう馴染みの食器や家具を持参するよう説明している。 また、事業所を見学して雰囲気を体感してもらい、本人が納得して利用できるよう努めている。	
		利用に関して職員が自宅を訪問したりホームを見学してもらったり、馴染みの物品を持参してもらい等、不安を与えず徐々に馴染んでいただけるよう工夫している。						
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援								
13 27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の下ごしらえ、昔の話を聞いては知識を深めながら利用者さんが気軽に職員を怒ったり笑ったりにより支えあい家庭的な雰囲気を作り取り組んでいる。					糸カボチャの料理方法や、生け花の生け方、畑づくりや肥料の蒔き方など、職員がわからないことを教えてもらっている。 また、納豆やお酒を造ったことのある利用者から知識や経験を引き出し、昔話を聞くことで利用者の喜びにつながっており、一方的ではなく支え合う関係づくりに努めている。	
		食事の準備等、昔ながらのやり方を聴き、それを取り入れ活かしながら、お互いに支えあい、気軽に過ごせる雰囲気作りに取り組んでいる。						

外部評価	自己評価	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に出来るだけ本人の趣味、喜びの言葉等を聴取、面会時は喜怒哀楽を共にし家族との関係を保つことで一緒に本人を支える関係を行っている。 楽しいこと、困ったことを家族に連絡し、共に支援していく体制に取り組んでいると共に、面会時等、喜怒哀楽を共にし一緒に本人を支えていく関係を築いている。					
	29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	認知症にて面会者のことを全くわからない状態も面会を継続、声を掛けたり話しを聞いてくれることで本人と家族のより良い関係を支援し実施している。 面会を呼びかけたり、電話で安否の確認をしたり家族との連携を密にし、よりよい関係を保っている。					
	30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事、買い物等で馴染みの人に会う機会づくり、入居者の言動、笑顔等を引き出せるための言葉かけ、雰囲気づくりを継続し支援に取り組んでいる。 外出、受診時、昔の場所を見て回ったり、受診先で馴染みの人に会った際、じっくり話をできる時間を設けている。					
	31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は差別なく利用者全体を包むような声かけにより孤立なく支えながら行っている。 職員が仲介役となり、利用者一人ひとりが孤立しないように関わりあえる環境作りに努めている。					
	32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も電話等で様子を聴取されたり、ホームに遊びに来られるように声を掛けたり入院中では見舞い等で利用者や家族との関係を継続し取り組んでいる。 契約が終了しても町で会った時など、退居してからの状況等を聞きながら関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。					
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
1. 一人ひとりの把握								
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の話しを傾聴の中にて希望、意向を把握し1人ひとりに合わせた思いや暮らし方に努め言葉の理解が難しい場合はジェスチャー、行動で表現、本人本位に努めている。 日常生活の中で一人ひとりの暮らし方の思いや、希望、意向を十分に把握し、その人らしい暮らしを送れるよう検討し、取り組んでいる。				利用者の情報収集に努め、意見を表明できる方には話に耳を傾け、訴えが少ない方についても日常の行動を観察し、身振りや手振りで意思疎通を図るなど、個別に対応しながら思いや意向の把握に努めている。	

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者一人ひとり生活歴、本人にとって大切な経験、出来事を知りその人らしい暮らしや尊厳を支えサービス利用の経過等を十分把握されながら行っている。						
		得られた情報を活用しながら毎日の生活の中に取り入れ、生きがいのある環境作りに取り組みケアに活かしている。						
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	認知症の人の心理機能の特徴を職員は理解されながら時にはスキンシップにより心身状態を緩和、身体機能継続の把握等で個々の1日の過ごし方を行っている。						
		利用者一人ひとりの状態を把握しながら、その人の能力に応じて1日の過ごし方を判断し、ケアにあたっている。						
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し								
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員会議時、ケア会議を行っては担当職員と計画作成担当者が連携、モニタリングを行いながら利用者及び家族の意向を確認の上で他の職員と相談でチームにより利用者本位の介護計画を作成して行っている。			利用者複数名に対して担当職員を決め、計画作成にあたり担当者や家族などからの情報収集に努め、毎月の職員会議やケア会議で情報を共有し、内容を精査しながら介護計画に反映させている。		
			職員会議、家族の意向、家族の意見を聴き、また計画作成者、担当職員とモニタリングを行いながら介護サービス計画を作成している。					
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は六ヶ月、援助目標も現状に即した見直しを行い職員会議で検討、本人、家族の意向を確認の上で新たな計画作成に取り組んでいる。			定期的なモニタリングに基づき、概ね6か月を見直し期間としているが、事前に利用者の状態が変化すれば随時に見直している。 また、担当職員による気づきや利用者及び家族の意向も確認し、職員会議や申し送りで検討しながら見直しにつなげている。		
			期間に応じて見直しを行うと共に、状態変化時は現状に応じた見直しを行い、新たな計画を作成している。					
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護や介護計画に反映させるため入居者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録を行っている。						
		日常の様子を記録に残し、会議等で情報を共有、工夫や意見を提案しあうことで介護サービス計画の見直しを行っている。						
3. 多機能性を活かした柔軟な支援								
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者及び家族の意向に沿って通院を支援し又入居者の状況により往診等で医療連携を行って多機能性を活かしながら取り組みを実施されている。			利用者同士の交流やケアの方法を参考にし、帰宅願望のある方が別ユニットに赴き、お茶を飲んで落ち着いて帰るなど、2つのユニットが協力しながら支援している。 また、利用者及び家族の意向に応じて通院を支援しているほか、かかりつけ医の看護師とも連携して医療面をケアしている。		
			利用者および家族の意向に沿って通院を支援し、認知症の理解を図り、事業所の多機能性を活かした支援に取り組んでいる。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働								
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を通じ地域資源との協働、ボランティア等活用を行い、医療機関等の協力により入居者がより良く暮らし続けるように取り組んでいる。						
		民生委員、市役所職員、地域住民、家族と共に運営推進会議を2ヶ月に1度開催している。また、一人ひとりに係り付け医院を決め、緊急時に迅速な対応ができるように支援している。消防署立ち会いの消防避難訓練も毎年実施している。						
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	居宅介護支援事業・地域包括支援センター・サービス事業等話し合い入居状況等又は他のサービスを利用する支援を図っている。						
		本人の状態を常に観察し、意向を聴き入れながら他の関係者とも相談したうえでサービスが利用できるよう支援している。						
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括センター職員も出席又地域ケア会議出席により権利擁護、困難事例等を相談し地域包括支援センターと協働を図っている。						
		必要に応じて、地域包括支援センターと相談、連携を取っており、権利擁護の利用者を支援している。						
18 43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院を確保している中で本人、家族の希望に沿って受診報告を受けながら歯科医による往診等で適切な医療体制に取り組んでいる。					受診に際しては利用者及び家族の希望を尊重し、かかりつけ医や協力医への通院を支援しているほか、必要に応じて歯科医による往診などで医療の充実に努めている。	
		一人一人に係り付け医を持ち、受診時に特変あった場合、迅速に家族に連絡を取り今後の対応について話し合い、納得を得られたうえで適切な医療を受けられるよう支援している。						
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居者受診されている専門医の講習を受けながら受診時は日常生活変化等を相談上で専門医からアドバイスをいただいて治療に配慮し支援を行っている。						
		細かな介護記録を行い、その都度主治医と相談し、適切な治療を受けることができるように支援している。また地元で専門医を招いた勉強会にも参加している。						

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	市役所の保健師、訪問調査員の看護師、施設、病院の看護師と相談により日常の健康管理や医療活用の支援に取り組んでいる。						
		看護師と24時間連絡体制を整え、有事の際にも迅速な対応ができるように支援している。						
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院生活を不安なく過ごせるように情報をこまめに説明、長期入院にならないよう早期受診に心がけ早期退院に向けて病院関係者と相談上で入居者の苦痛の緩和に取り組んでいる。						
		入院時には家族と密に連絡を取り、経過を説明している。また、職員も直接入院先に足を運び、病院側と相談したうえで無理のない早期退院に努めている。						
19 47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合終末期については入居者の変化等を常に家族に説明、主治医、家族と話し合い方針を共有し取り組んでいる。			重度化した場合の終末期ケアについては、家族に説明のうえ話し合いの機会をもち、利用者及び家族に不安を与えないよう主治医と連携しながら支援している。	○	看取りを行う方向で検討中であるため、看護師の確保やマニュアル、同意書の整備など、利用者及び家族が望んだ際に迅速に対応できるよう体制の確保に向けて取り組んでほしい。	
		共感的な態度で接し、利用者の家族に不安を与えないよう事業所側ができることを見極め、主治医と連携し支援にあたっている。現在、看取りを行う方向で検討している。						
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	共感的な態度で接し入居者家族に不安を与えないように事業所でする事を見極め主治医とチームとし支援に取り組んでいる。看取りへの検討に方向性を向けている。						
		重度化した利用者に対し、事業所側が「できること」「できないこと」をしっかりと把握し、「できること」に対し取り組んでいる。又、急変時の対応も事前に検討し備えている。						
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入退居の前には、入居者が移り住むことのダメージを最小限に食い止めるために本人の係わる関係者と情報交換と話し合いをもち本人への不安の軽減に取り組んでいる。						
		他所へ移り住む際には、本人、家族関係者に十分な話し合い、説明を行っている。また、サマリー等を活用しながらダメージ防止に努めている。						

外部評価	自己評価	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
1. その人らしい暮らしの支援								
(1)一人ひとりの尊重								
20	50	○プライバシーの確保の徹底	入居者一人ひとりの人格を尊重しプライバシーを配慮の中で本人の返答能力に応じ否定等なくさりげない介助と声がけに取り組んで個人情報は外部から見えないよう工夫している。	○	全職員に個人情報の共通認識を持てるように話し合い広報写真を掲載等には同意書を求めたうえで取り組んでいきたい。			利用者には方言を交えた親しい感じで接し、声かけや介助により利用者の尊厳を傷つけることのないよう心がけている。 また、ケース記録は黒いフィルムで隠し、前回評価結果を受けて広報への写真掲載について個人情報使用同意書を作成するなど、使用目的や条件を明確にしてプライバシーの保護に努めている。
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員各自が言葉使いに十分に注意し、利用者の誇り、プライバシーを傷付けることのないよう配慮している。記録、個人情報の取り扱い、管理も徹底している。また、広報に関しても各家族に写真等の掲載同意を取ったうえで発行している。					
21	51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援	小さな事柄についても本人の意見を丁寧に聴き、感じ取り、本人が思いや希望を表せるように配慮して行い入居者が納得しながら生活への支援を行っている。					
		本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の言動だけでなく、表情からも思いや希望を表せる事ができるように声がけ、接し、自己決定ができるよう支援に取り組んでいる。					
21	52	○日々のその人らしい暮らし	一人ひとりのペースを大切に自由で自分のペースを保ちながら暮らせるように見守りの中で個々の日々の過ごし方を観察し希望にそった取り組みをしている。					起床時間に合わせて食事の時間をずらしたり、カーペットに座りながら食べる方、遅くまで居室でテレビを見たり、一番風呂に入る方など、利用者それぞれの生活リズムに合わせて支援している。
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、家事手伝い、入浴時間、レクリエーション等、利用者一人ひとりのペース、希望に合わせて過ごせるよう支援している。					
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援								
22	53	○身だしなみやおしゃれの支援	入居者一人ひとり個性を大切に髪型、服装を本人の望む支援、外出時化粧等理美容室も入居前に行っている店を利用するよう努めている。					
		その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出、入浴時は本人の希望に沿った身だしなみを取り入れている。理容、美容も利用者一人ひとりの希望するお店へ行っていただき、また、外出困難な利用者には理容店側に直接来ていただき、散髪を行っている。					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援	食欲を高め楽しく食べられるような声がけ、同じ食卓でメニュー、好み等を会話によりゆっくりと食事を準備、片付けも一緒に行っている。					職員がメニューを決めているが、利用者の希望により変更したり、準備や後片付けも無理強いすることなく、利用者同士が声をかけ合い、支え合いながら関わっている。 また、たまに外食に出かけたり、梅漬けを好む方には毎日1つ用意するなど、食事を楽しめるよう配慮している。
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの希望、好みを取り入れ、メニューの作成にあたっている。食事の準備は職員と利用者が一緒に盛り付けや野菜切り、配膳を行っている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の望む物を購入(ヤクルト・サイダー・おやつ等)により一人ひとりの状況にあわせ楽しみの支援で行っている。						
		利用者が好む飲み物、おやつはお茶の時間、入浴後の他に、本人の希望に添って楽しんでいただけるよう支援している。現在喫煙者はいない状態だが、以前はおり、職員と一緒に喫煙を楽しんでいた。						
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレの排泄や排泄の自立に向けた支援と不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。						
		利用者一人ひとりの排泄パターンを把握、定期的なトイレ誘導を行い、おむつ、尿取りパット等の使用を減らしている。また、誘導の際は利用者のプライドを傷付けないよう配慮している。						
23 57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴前にその日の健康状態を確認し時間帯、長さ、回数等を見極め介助時会話等でつるいだ入浴と不安、羞恥心、プライバシーに配慮した方法で行っている。			利用者の希望する日に入浴することが可能で、最低でも3日に1回は必ず入浴するよう促している。 また、一番風呂を希望する方や同性介助を望む方、行事を兼ねて温泉に出かけるなど、入浴を楽しめるよう配慮している。			
		一人一人の希望やタイミングに合わせて入浴時間を提供しており、入浴前に体調確認、バイタルチェックを行い、安心して無理のない入浴を支援している。						
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの睡眠パターンを把握し夜寝れない入居者には1日の生活リズムづくりを通じた安眠策と緊張、疲労の程度に応じ心身を休める場面を個別に取るように行っている。						
		利用者一人ひとりの希望や生活習慣にそった時間で就寝していただいている。外出後等は本人の体調をみて休息していただいている。						
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援								
24 59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	地域や入居者に馴染みの季節に合せ入居者主体とした家族的雰囲気なかで生活歴の力を活かした楽しみごと役割等で食器拭き、洗濯たたみ、新聞折り、昔話し等で張り合いある支援を行っている。			食器拭きや食事の手伝い、畑づくり、新聞折りや洗濯たたみなど、できる範囲で役割を担っている。 また、大正琴や生け花、カラオケ、散歩など個人の趣味に合わせて楽しむ方のほか、季節毎に敬老会や雛祭り、クリスマス会、お月見などの行事を企画して利用者が楽しめる機会づくりに努めている。			
		利用者一人ひとりに併せた役割分担を行っており、大正琴や生け花、塗り絵等、個人の趣味を活かせるよう支援している。						

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
	60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者が自分でお金を持つ事を職員も理解し家族にも、入居者は自分がお金を持っているだけで気持ち的に違うことを説明等でスタッフと一緒に買い物に行ってはアメ等を買って他の利用者へあげたり、もらったりし、支援している。 お金を所持している利用者が数名おり、買い物の際は声がけし、希望の際は欲しい物が購入できるよう支援している。					
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム、地域の行事等により外出を取り入居者希望に沿って散歩、ドライブ、買い物、自宅、日中本人のストレス等を見極めながら外出の機会を多くするように行っている。 職員の付き添いにて近くの床屋や保育園に出かけたり、車で買い物に出かける等、本人の希望に添って外出支援を行っている。			散歩や買い物、地域の行事に参加しているほか、床屋や隣接する保育園に出かける方、ユニット毎にレンタカーを借りてのドライブなど積極的に出かけている。 また、車イスや全盲の方も共に出かけ、帰宅願望のある方はタクシー会社と連携して自宅まで送り届けるなど工夫している。		
	62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	若い頃の会話等をされながらその場所に行きたいとスタッフ側から声をかけたり又家族と一緒に遠方に出かける機会を行っている。 利用者の家族と一緒に外出し、外食等を楽しんだりしておられ、家族と共に出かける機会を設けている。時には法要にも等にも連れて行ってくれる家族もおられる。					
	63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務室に気軽に来られては電話を本人に自由にかけさせたり手紙、年賀状のやり取りに取り組んで行っている。 本人の希望により家族や親戚等に電話をかけていただいている。自分でかけられる利用者には自分でかけていただき、かけられない場合には職員が支援している。年賀状の作成も職員と利用者が一緒にしている。					
	64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族等はいつも気軽に来られ家庭的な雰囲気ですぐで迎え入居者、スタッフと一緒にお茶を飲んで話しながら居心地よく馴染みある取り組みで行っている。 家族、友人などの訪問時は職員もしくは利用者本人が明るく迎えている。また、居室にテーブル、イスを設置している利用者もおり居室にてゆっくりとした雰囲気ですぐで話せるよう取り組んでいる。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
(4) 安心と安全を支える支援								
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の認識は職員は正しく理解されており入居者に安心と安全を支える支援を行っている。						
		運営者、すべての職員が禁止行為をしっかりと理解、把握し、身体拘束を行わない適切なケア実施している。						
26 66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	入居者の自由な暮らしを支え入居者や家族等に心理的圧力をもたらさないように玄関に鍵をかけなくてもすむような配慮を行っている。外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解、協力の促進等で行っている。					日中は玄関に鍵をかけず、一般家庭と同様に夜間のみ施錠しており、チャイムで外出を把握している。 外出した際は制止することなく、職員の見守りにより利用者の安全確保に努め、近隣住民による連絡や警察が立ち寄り様子を見にくるなど、前回評価時に比べて地域全体の見守りができている。	
		夜間帯（21時～7時頃）以外は施錠は行っておらず、利用者の外出希望の際は職員が付き添いの支援を行っている。						
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者一人ひとりの日中、夜間をどうして把握の上で足音のない人には戸に鈴、車椅子の人には合図の音を出させる工夫により所在を早期発見できるように夜間の巡視をこまめに取り組んでいる。						
		日中は居間で過ごされている利用者がほとんどだ、居室で過ごされている利用者には時間を見て安全確認を行っている。また、夜間も定期的な巡視時間を定めており、安全に配慮している。						
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に応じて、薬、洗剤、刃物等を注意の必要な物品については保管場所、管理方法等を明確に危険を防ぐ取り組みを行っている。						
		注意が必要な物品等は、利用者の手の届かないところへ保管し危険を未然に防いでいる。また、洗濯を手伝ってくれる利用者もいるため、その際は職員と一緒に洗剤を使用し、安全に配慮している。						
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	年齢増、機能の低下、薬剤の影響、認知症を考慮し一人ひとりの状態に応じた環境整備を整えて事故防止を常に念願に取り組んでいる。						
		歩行時は見守り、転倒の可能性があれば付き添いを行っている。食事の際は必要に応じて、とろみ食や刻み食を提供し、事故を未然に防いでいる。また、薬一つひとつに名前を記入し誤薬のないよう取り組んでいる。						

外部評価	自己評価	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	救命処置の講習を何度も継続し緊急事態の対応策のマニュアル等で初期対応の応急手当に取り組んでいる。						
		急変時、事故発生時に備え、連絡網を作成し対応している。また救急救命の講習会への参加やマニュアルブックを常備し緊急時に備えている。						
27 71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中、夜間想定し避難訓練等を行い水害での非難も経験の上で地域住民と見ていただき地域住民より心配の声をかけられながら協力を得られながら行っている。			消防署の立ち会いで年2回の避難訓練を実施し、通報の仕方や放水訓練、消火訓練のほか夜間を想定した訓練も行い、ヘルメットや食料の備蓄など前回評価結果を受けて対策が進んでる。 また、過去の水害時の教訓を生かし、認知症の方がいるため一般住民とは別の避難場所を確保するよう行政に働きかけている。	○	過去の水害では地域住民の協力も得られているが、今後は訓練への参加も呼びかけ、避難誘導などの役割を明確にすることで、より確実な緊急災害時の協力体制を構築してほしい。	
		消防署立会いのもと、年に2回の避難訓練を行っている。19年の水害の際には地域住民の協力を得られ、迅速な対応ができていた。						
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	起こり得る危険性、受診後医師からの注意等を面会時、電話等で家族に説明、気軽に話しされる場のもとで家族と相談の上で行っている。						
		受診時に特変あった場合は、面会時や電話で今後起こり得る危険性等をしっかりと家族に説明したうえで話し合い、対応策を出すように取り組んでいる。						
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援								
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者一人ひとり身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように、すべての職員が注意し申し送り等で情報を共有し重度化、入院を防ぐ努力を行い対応に取り組んでいる。						
		毎日のバイタルチェックだけではなく、利用者の表情や行動など、細かなことにも注意を配り、異常の早期発見に努め速やかに医療機関に連絡、受診ができるようにしている。						
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者が使用する薬の目的や服作用、用法や用量を承知し入居者一人ひとりが医師、歯科医師、薬剤師等の指示どおりに服薬できるよう支援し症状の変化を認識し行っている。						
		受診、薬の処方後は、申し送りノート、受診ノートに薬の目的などを記入し、職員全員が目を通している。また、服薬後の症状の変化にも注意し、記録を行っている。その他、ピルブックも常備して。						

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	適度な運動、十水分補給、規則的食事の摂取を行い食事の工夫、個々に合わせ牛乳、ヤクルト等での配慮、高齢者の便秘等を職員は理解し症状を観察し行っている。						
		便秘予防のため、献立にヨーグルトなどの乳製品を取り入れたり、定期的な散歩、体操を行っている。また、水分摂取の際もココア等、便通を良くする飲み物を取り入れ工夫している。						
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後入居者の力を引き出しながら口の中の汚れ物や臭いが生じないように洗浄液使用と含嗽等の支援、義歯の挿入、除去時十分注意を図り炎症、出血等に十分観察し行っている。						
		毎食後に声がけ、誘導、介助にて口腔ケアを行っている。口腔内に異常がみられた場合は速やかに歯科受診を行っている。就寝時に義歯洗浄剤を使用する利用者もおられる。（スタッフ管理にて）						
28	77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢者に対しての1日のカロリー計算を通じて栄養のバランス、水分量に十分配慮、夜間対も水分補給を出来るように準備されながら習慣に応じた支援に取り組んでいる。			元病院の栄養士から指導を受け、カロリー計算のうえ利用者の栄養バランスに配慮した献立を作成している。 また、夜間や入浴後、レクリエーションの間に水分補給を心がけ、食事や水分摂取量も記録している。			
		平成20年より栄養士から指導を受け、カロリー計算、栄養バランスに配慮しながらメニューを作成している。水分補給に関しては、入浴後やレクリエーションの間にも提供し、必要量を摂取できるように支援している。						
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症の研修にできるだけ参加、マニュアル作成、入居者、職員全員予防接種を受け手洗い、よく触れる所を消毒、使用されたティッシュ、、汚染等はビニール袋に入れるなど十分に配慮し取り組んでいる。						
		季節性インフルエンザの予防接種は毎年各家族の同意のもと行っており、今回の新型インフルエンザについても家族へ同意を求めている。また、感染症の予防、対応マニュアルも設置している。						
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理前後の手洗い、おしぼり作りの手の消毒、調理用具のまな板等はハイターで消毒、食器類は熱湯で、買い物も期限等に注意し新鮮で安心な食材の上で食中毒の予防を行っている。						
		常に新鮮で安全な食事を提供できるよう、食材の長期保存、買いだめ等はせず、2日に1回の食材購入を行っている。まな板、包丁なども定期的に消毒、除菌を行っている。						

外部評価	自己評価	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり								
(1)居心地のよい環境づくり								
	80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	違和感や威圧感を感じさせず、一般の家庭的表札を掛け玄関、玄関の周囲に花を植えたり、気軽に家族、近隣の人等が出入りできるような環境作りを行っている。 玄関にプランターを置いたりし、より家庭的で親しみやすく、気軽に出入りができるような雰囲気作りに取り組んでいる。また、玄関付近の清掃も毎日行っている。(※現在冬期のためプランター等は撤去中)					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に観葉物を置き廊下等には写真、造花を飾り居間にはぬいぐるみ、きんぎょ等を設置、家庭的雰囲気と季節感を入れながら音、臭い、光等に対して配慮により不快なよう取り組んでいる。 玄関や居間などの共有の空間に季節感が持てるような飾り付けを行っている。また、不快な臭いなどが無いよう清掃面にも注意している。			不快な音や臭いはなく、ホールにはテーブルやソファを置き、利用者が作ったチラシを使った作品などを飾り、本や雑誌、小物などで家庭的な雰囲気づくりに努めている。 また、冬期間は畳のスペースは冷たいとのことでカーペットを敷き、利用者が暖かく、快適に過ごせるよう配慮している。		
	82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室には使い慣れた家具や生活用品、装飾品を持ち込まれ、廊下にはソファを設置、自室には気の合った利用者と共に臥床しながらTVを見たり、思い思いの会話をされながら行っている。 廊下の隅に長イスを設置しており、他者と離れて独りになれたり、長イスに座って利用者同士で過ごせるようなスペースを確保している。					
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には常に新しい物でなく本人が使い慣れた物を持参してもらえよう説明し本人が居心地よく生活できるように行っている。 利用者本人が実際に自宅で使用していた物品を居室に配置して使っていただき居心地良い環境作りに取り組んでいる。亡くなられた夫の写真を持参し毎朝ご飯を供えている利用者さんもいる。			利用に際して馴染みの物を持ち込むよう説明し、これまで使っていたベットやタンスなどを持ち込んでいる。 また、カレンダーや家族の写真などを飾り、個性ある生活空間づくりに努めている。		
	84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみが無いよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	こまめに換気により気になる臭いなく適度な温度、湿度を調整、外気温と差を配慮し高齢者に合わせた冷暖房の調節を行っている。 1日数回定期的な換気を行っている。温度調整は利用者の体調に気を配りこまめに声かけを行ったうえで行っている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり								
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの身体機能に合わせてギャッチベット、車椅子、手すり、浴槽、トイレ、流し台等、苦痛なく安全で自立した生活を送れるように取り組んでいる。						
		玄関や、廊下、トイレに手すりを設置し、自立して安全な歩行ができるよう配慮している。また、浴室、脱衣所、浴槽内にも手すりを設置し自立を支援している。						
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	認知症の症状を考慮にて一人ひとりに合わせ混乱や失敗のないように気持ちを和らげる言葉かけを大切にしながら不安なく自立した生活に取り組んでいる。						
		利用者一人ひとりの力を職員がしっかりと理解し、残存機能を活かした自立の向上に努め、その際は、失敗、混乱のないよう配慮している。						
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周りにはベランダ、畑、保育園、児童館、洗濯物干し場等あり園児を見ながら入居者同士の会話、職員との草取り、水まき、洗濯干しを行いながら楽しみの活動に取り組んでいる。						
		夏期は畑での収穫を楽しんだり、天気の良い日はテラスに出て隣の園児達を眺め楽しんでおられる。						

※ は、重点項目。

項目		自己評価	
		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと) ①：1ユニット（A棟すずらん） ②：2ユニット（B棟ひまわり）	
V. サービスの成果に関する項目		①	②
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	○
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	○
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	○
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	○
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	○
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	○
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	○
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	○
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	○
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	○
98	職員は、生き活きと働いている	○	○
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

個別性を尊重した心のふれあいの介護の提供と本人がこれまで培ってきた家族や地域社会との関係の継続を大切に家庭的に自分で出来る事、出来ない事をみんなが優しく見守り今持っている力、その人らしさに合わせた生き活きとみんなが味わえる豊かな心の支援とお互いに助け合いを大切にするホーム作りをアピールしたい。

利用者の個別性を尊重し、ホームにて家庭的にできる事、できない事を見極めて、本人が今持っている力を発揮できるように職員が見守り、必要があれば手助けをし、その人らしさに合わせて楽しく明るい、生き活きとした生活を送れるように支援している事をアピールしたい。